

平成5年度

学術情報センター

要覧

NACSIS



標本館 明治9年に東京医学校(現東京大学医学部)本館として本郷の旧加賀藩邸に建築されたもので、木造二階建、棧瓦葺きで明治時代の西洋式木造建築の特徴をよく残している建物である。昭和44年に小石川植物園内に移築され、現在学術情報センターの一部が使用している。明治時代の貴重な建物として、昭和45年に国の重要文化財に指定されている。

目次

はじめに	1	8. データベースの形成	18
1. 沿革	2	9. 事業の国際展開	19
2. 組織	3	10. ホスト計算機システム	20
3. 学術情報システムの仕組み	4	11. 研究活動	21
4. 学術情報ネットワーク	6	12. 教育・広報活動	23
5. 目録・所在情報サービス	8	13. 参与・評議員・運営協議員・職員	24
6. 情報検索サービス	13		
7. 電子メール/電子掲示板サービス	17		

はじめに

文部省学術情報センター(NACSIS)は昭和61年4月に東京大学文献情報センターの転換・拡充により発足しました。NACSISは、日本の大学のすべての研究者が共同利用する、大学共同利用機関のひとつであります。NACSISの目的は、学術情報を収集・組織化し、提供するとともに、学術情報及び情報システムに関する研究開発を行うこととあります。

目録所在情報事業は、年々拡大・充実しており、平成4年度においてはオンライン接続されている大学図書館数は250に達し、目録端末総数は2,100を超え、登録件数は年度末で980万に達しています。学術雑誌総合目録については、平成4年度から欧文編の改訂作業を675機関の参加を得て進めています。またILLシステムはサービス開始から1年経過しましたが150機関を通じて26万件を越える利用があり、順調に拡大しています。本年4月からは情報検索サービスと連携した新たなILLのサービスの提供を開始しました。

情報検索サービスは、35種のデータベースの検索サービスを行っております。また、平成4年度からユーザーの意見を聞き、よりよいサービスを提供するためモニター制度を実施しております。データベースの構築については学術論文データベース第五系(理学)の充実と研究者ディレクトリ(新版)作成のための「学術研究活動に関する調査」を行っております。

ネットワークの拡充も順調に進められており、国内パケット交換網については、従来のノードの機器の増強および回線の高速化を行い、これによって全国の228の大学等に属する539のコンピュータ等に各種のサービスを提供しております。また、平成4年度から学内ローカル・エリア・ネットワーク(LAN)の普及に対応するため、TCP/IPプロトコルによるLAN間接続を可能とするよう、12のノードにルータを設置し、これらを高速回線で接続する、インターネット・バックボーンSINETの運用を開始しました。これは従来のパケット交換網とも接続し、より高速なネットワーク間通信を実現する幹線網であります。

さらに国内におけるSINETの整備と平行して、国際インターネットにより高速な回線を提供するため平成5年3月に米国カリフォルニア州のNASA/Ames研究所との間の国際回線を512 kbpsに増強しました。また、海外ノードであるワシントンD.C.の米国国立科学財団(NSF)及びロンドンの英国図書館にはNASA/Ames研究所経由からの専用回線が設置されています。

次に電子メールサービスにつきましては、昭和63年度から国際標準規格であるMHS方式による国内電子メールサービスを全国に先駆けて提供しておりますが、平成4年度には、増大する利用に対処するため、電子計算機システムをより性能の高いACOS3700/8に更新しました。これに伴い平成5年度はネットワークニュースなどの提供を新たに開始しております。

研究開発も強力に推進されています。本年度はその成果をNACSISの諸事業に反映させるとともに、文部省科学研究費の新プログラムの一つとして、“学術研究支援のための超高速情報通信網の研究開発”に着手いたします。これは米国をはじめ欧州諸国において急速に研究開発が進められており、その成果にもとづいてネットワークの構築が開始されようとしている、超高速学術研究情報通信網、いわゆるギガビット・ネットワークに対応するシステムを、我が国においても研究開発し、応分の国際貢献を果たすとともに、我が国における学術研究のために不可欠な基盤整備に寄与しようとするものであります。超高性能の交換ノード、超高速のマルチメディア・インターフェース、機能分散学術情報処理のためのポータビリティの高いソフトウェアなど、研究開発課題は山積してありますが、NACSISはその全力をあげてこのプロジェクトに取り組んで参る所存です。

教育訓練活動は、利用者のニーズに応えるため年々充実を図っているところであります。平成4年度からは情報ネットワーク担当職員研修を新たに実施するとともにデータベース構築の実務に関する長期研修を2回、さらに東京のみならず各地の大学図書館において短期の目録システム講習会をしばしば開催するとともに、ILLの担当者や情報検索サービスの利用者の講習も実施し、受講者数は延べ3,200人を超えております。

創設以来8年目を迎え、NACSISの全教職員は、心を新たにその目標に向かって勇往邁進して参ります。どうか皆様方から引き続きご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成5年4月



学術情報センター所長 猪瀬 博

1. 沿革

昭和48年10月	(1973年)	学術審議会第3次答申(学術振興に関する当面の基本的施策)において、基本的施策として、「学術情報の流通体制の改善について」提言
昭和51年5月	(1976年)	東京大学情報図書館学研究センター発足
昭和53年11月	(1978年)	文部大臣から学術審議会に対し「今後における学術情報システムの在り方について」諮問
昭和55年1月	(1980年)	学術審議会から「今後における学術情報システムの在り方について」答申 学術情報システムの考え方と整備の方策等について提言
昭和55～58年('80～83年)		文部省において「学術情報センターシステム開発調査」実施
昭和56～60年('81～85年)		文部省において「学術情報センター設置調査」実施
昭和58年4月	(1983年)	東京大学に学内共同の教育研究施設として、文献情報センターが設置され、目録・所在情報システムの開発等を実施
昭和59年3月	(1984年)	コンピュータシステムHITAC M-280Hの導入
昭和59年4月	(1984年)	東京大学文献情報センターが学内共同利用施設から全国共同利用施設に改組
昭和59年12月	(1984年)	東京工業大学を皮切りに目録・所在情報サービスを開始
昭和61年2月	(1986年)	文部省において「学術情報センター設置準備協力者会議」開催
昭和61年3月	(1986年)	学術雑誌総合目録和文編の刊行
昭和61年4月	(1986年)	東京大学文献情報センターを改組し、大学共同利用機関として学術情報センター設置
昭和61年4月	(1986年)	科学研究費補助金研究成果概要データベース等の形成開始
昭和62年1月	(1987年)	コンピュータシステムをHITAC M-680Hに更新
昭和62年3月	(1987年)	学術雑誌総合目録和文編誌名変遷マップの刊行
昭和62年4月	(1987年)	学術情報ネットワークの運用及びNACSIS-IRサービスの開始
昭和62年5月	(1987年)	学会発表データベースの形成開始
昭和63年4月	(1988年)	電子メールサービスの開始
昭和63年4月	(1988年)	学術論文データベース第二系の形成開始
平成元年1月	(1989年)	コンピュータシステムをHITAC M-684H/M-682Hに更新
平成元年1月	(1989年)	学術情報ネットワークの国際接続(米国国立科学財団：NSF)
平成元年3月	(1989年)	学術雑誌総合目録欧文編の刊行
平成元年4月	(1989年)	国際電子メール(CSNETと接続)の試行サービス開始
平成元年5月	(1989年)	学術論文データベース第一系の形成開始
平成元年12月	(1989年)	学術情報ネットワークの国際接続(米国議会図書館：LC)
平成2年1月	(1990年)	学術情報ネットワークの国際接続(英国図書館：BL)
平成2年3月	(1990年)	学術雑誌総合目録CD-ROM版の刊行
平成2年4月	(1990年)	国際電子メール(CSNET及びBITNETと接続)の本格サービス開始
平成2年4月	(1990年)	大学等の研究者等提供データベース受入事業の開始
平成2年6月	(1990年)	民間助成研究成果概要データベース等の形成開始
平成3年3月	(1991年)	学術雑誌総合目録欧文編誌名変遷マップの刊行
平成3年3月	(1991年)	英国の研究図書館におけるNACSIS-CATの試用開始
平成4年1月	(1992年)	コンピュータシステムをHITAC M-880/420、M-880/210に更新
平成4年3月	(1992年)	学術雑誌総合目録和文編(1991)の刊行
平成4年4月	(1992年)	ILL(Inter-library Loan：図書館間相互貸借)システムの運用開始
平成4年4月	(1992年)	インターネット・バックボーン(SINET)の運用を開始
平成4年11月	(1992年)	電子メールコンピュータシステムをACOS3700/8に更新

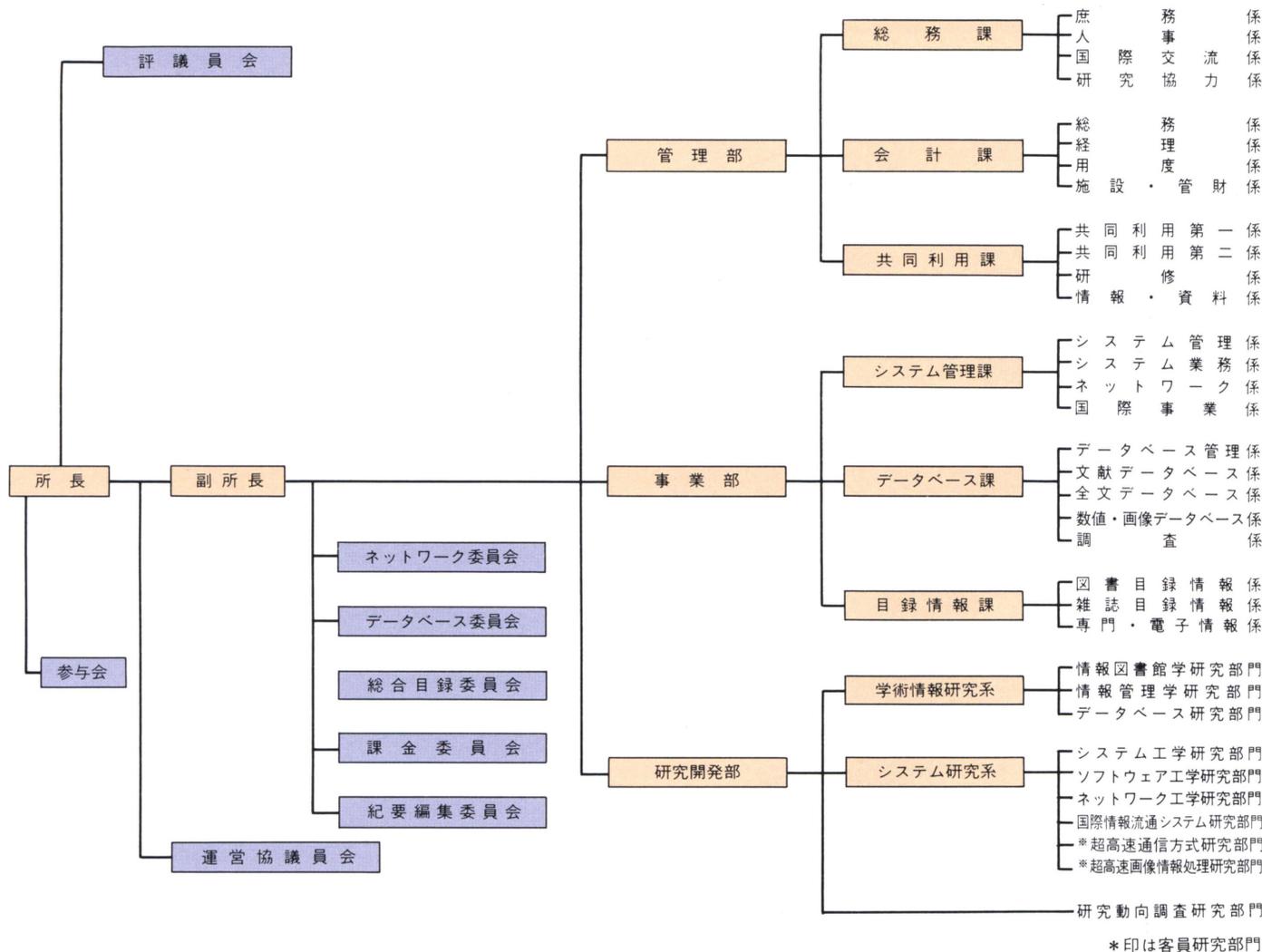
2. 組 織

学術情報センターは、国立学校設置法による大学共同利用機関として昭和61年4月に設置され、全国的・総合的な学術情報システムの整備を推進する中核的な機関の役割を担い、以下の事業を実施している。

- 1) 学術情報システムの計画・連絡調整
- 2) 学術情報及び学術情報システムに関する総合的な研究及び開発
- 3) 学術情報ネットワークの構築・運営
- 4) 全国の大学図書館等の学術図書・雑誌等の目録・所在情報の形成・提供

- 5) 書誌、抄録、数値、画像等二次情報の提供
- 6) データベース形成の促進
- 7) 電子メール/電子掲示板サービス
- 8) 研修、講習会等教育訓練及びシンポジウムの開催

運営にあたっては、学術情報の提供、学術情報流通にかかわる研究開発等、全国の大学等に共通する基盤的機能を果たすものであることから、全国の大学等の意志が充分反映されるよう、事業計画その他重要事項は、評議員会の助言を得て、また、運営協議員会に意見を求め、専門的な事項は、各委員会で検討・審議し進めている。



定 員

所長	副所長	管 理 部	事 業 部	研 究 開 発 部			合計
		事務官・技官	事務官・技官	教授	助教授	助手	
1	1	31	43	(2) 8	(2) 7	12	(4) 103

() 書きは客員分

予算(平成5年度)

区 分		金 額(単位千円)
人 件 費		658,624
物件費	校 計	1,467,774
	算 機 借 料	1,213,800
	他	32,218
合 計		3,372,416

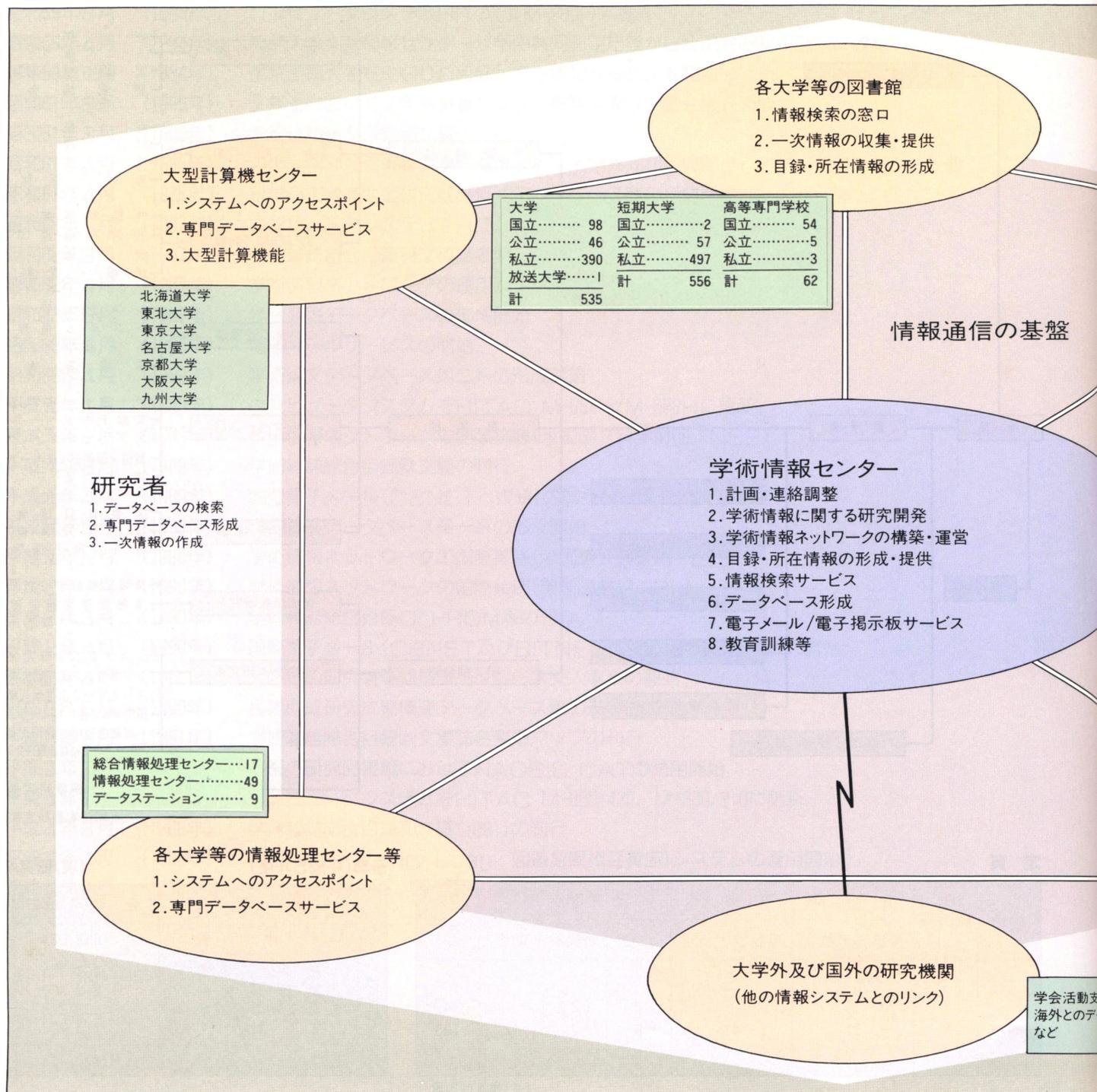
(項)研究所

3. 学術情報システムの仕組み

学術情報システムは、人文、社会、自然科学の全分野の学術情報を対象とし、全国の国公私立大学等の参加のもとに、学術情報センターを中心に、大学の大型計算機センター、情報処理センター、図書館、大学共同利用機関等をコンピュータとデータ通信網で結合し、大学等の研究者が必要とする学術情報を迅速・的確に提供する、全国的、総合的な情報流通システムである。これはまた、大学外の民間や諸外国の情報システムともリンクして、大学外の研究者への情報提供も可能とするものである。主要な機能・サー

ビスとして次のものがある。

- 1) 世界で生産される学術雑誌等一次情報の網羅的収集とその提供サービス
- 2) 全国の500余に達する大学の図書館が所蔵する図書約1億7千万冊、及び230万種の雑誌の目録・所在情報データベースの形成とその迅速・的確な提供サービス
- 3) 大学、大学共同利用機関等で生み出される多様な研究成果、数値データ、画像情報等のデータベースの形成と検索サービス



- 4) 高度な学術情報の流通に最適なハードウェアの開発、情報の管理・データベースの形成・電子図書館等の研究開発等総合的な研究開発
- 5) 他の情報システムと結合して、大学の有する先駆的、独創的な情報資源の、民間や国公立試験研究機関などの研究者への提供サービス
- 6) 諸外国の情報ネットワークと接続の上で、我が国の大学等の研究者の研究成果の海外への紹介



京都大学附属図書館



東京大学大型計算機センター

分野別外国雑誌センター

1. 一次情報の網羅的収集・提供
2. 目録・所在情報の形成

医学・生物学系
 大阪大学附属図書館生命科学分館
 東北大学附属図書館医学分館
 九州大学附属図書館医学分館
 理工学系
 東京工業大学附属図書館
 京都大学附属図書館
 農学系
 東京大学農学部図書館
 鹿児島大学附属図書館
 人文・社会科学系
 一橋大学附属図書館
 神戸大学附属図書館

高エネルギー物理学研究所
 国文学研究資料館
 国立極地研究所
 宇宙科学研究所
 国立遺伝学研究所
 統計数理研究所
 国際日本文化研究センター
 国立天文台
 核融合科学研究所
 岡崎国立共同研究機構
 ・分子科学研究所
 ・基礎生物学研究所
 ・生理学研究所
 国立民族学博物館
 国立歴史民俗博物館
 放送教育開発センター
 大学入試センター
 学位授与機構

共同利用機関

1. 一次情報の網羅的収集・提供
2. 目録・所在情報の形成

交換・接続



宇宙科学研究所

4. 学術情報ネットワーク

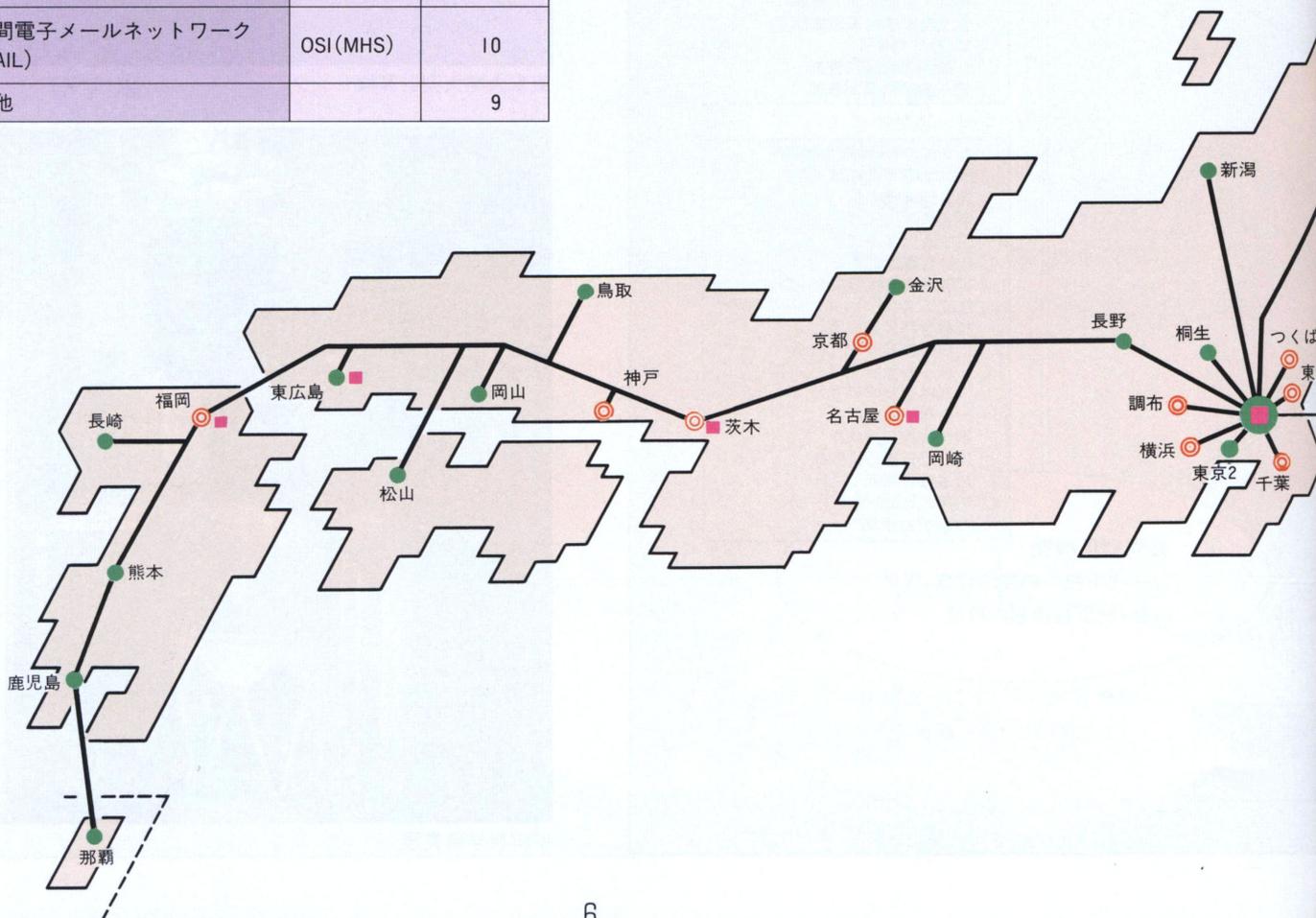
学術情報センターでは、研究者間での学術情報の流通を促進するため、学術情報ネットワークを運営している。これは全国の通信拠点(ノード)に設置したパケット交換機及びIPルータ等の設備と高速デジタル回線を使用して日本全国の大学、研究機関を結ぶ学術研究専用の情報通信ネットワークである。

学術情報ネットワークは、大学間コンピュータ・ネットワーク(N-I)をはじめ、大学図書館と学術情報センターを

結ぶ図書館ネットワークや大学病院等のグループで利用する医療情報ネットワーク等(これらを仮想ネットワークという)の基盤通信路として利用されているパケット交換網と、研究者のワークステーションなどが接続される学内LAN等の相互接続を目的とし、通信プロトコルとしてTCP/IPを用いたインターネット・バックボーン(SINET)から構成される。

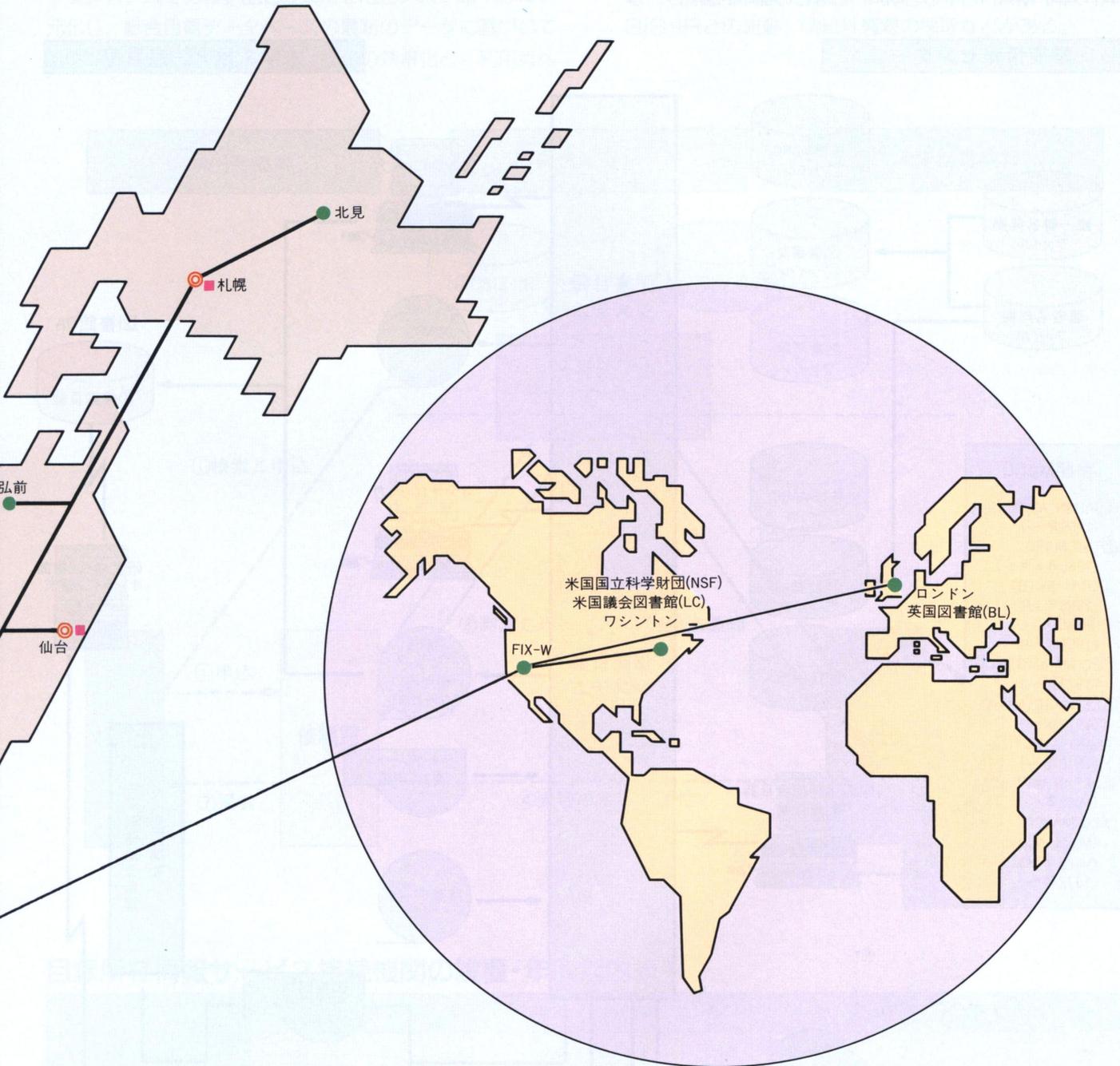
(平成5年3月末現在)

学術情報ネットワークパケット交換網上の仮想ネットワーク名称	プロトコル	接続 計算機等数
大学間コンピュータネットワーク	N-I	187
図書館ネットワーク	N-I、VTSS	170
高エネルギー物理学研究用ネットワーク(HEPnet)	DECnet TCP/IP等	22
医療情報ネットワーク(UMIN)	N-I	28
宇宙地球理学ネットワーク(STEP、SPAN)	TCP/IP DECnet等	14
地震研究用ネットワーク	N-I TCP/IP等	5
インターネット	TCP/IP	59
ファクシミリ用ネットワーク	G4FAX手順	35
大学間電子メールネットワーク(SIMAIL)	OSI(MHS)	10
その他		9



本センターの全国研究者向けの情報検索サービスや電子メールサービスもこのネットワークを介して行われている。また、パケット交換網には、より多くの研究者が広域から簡単に利用可能とするために電話回線からのアクセスポイントを用意している。さらに、学術情報ネットワークは国際的

な情報交流を促進するために英米等の国外ネットワークとの相互接続を推進している。将来は高速デジタル回線の特徴を生かし、画像、フルテキスト、音声等を含めたマルチメディア通信サービスへ発展することを検討している。



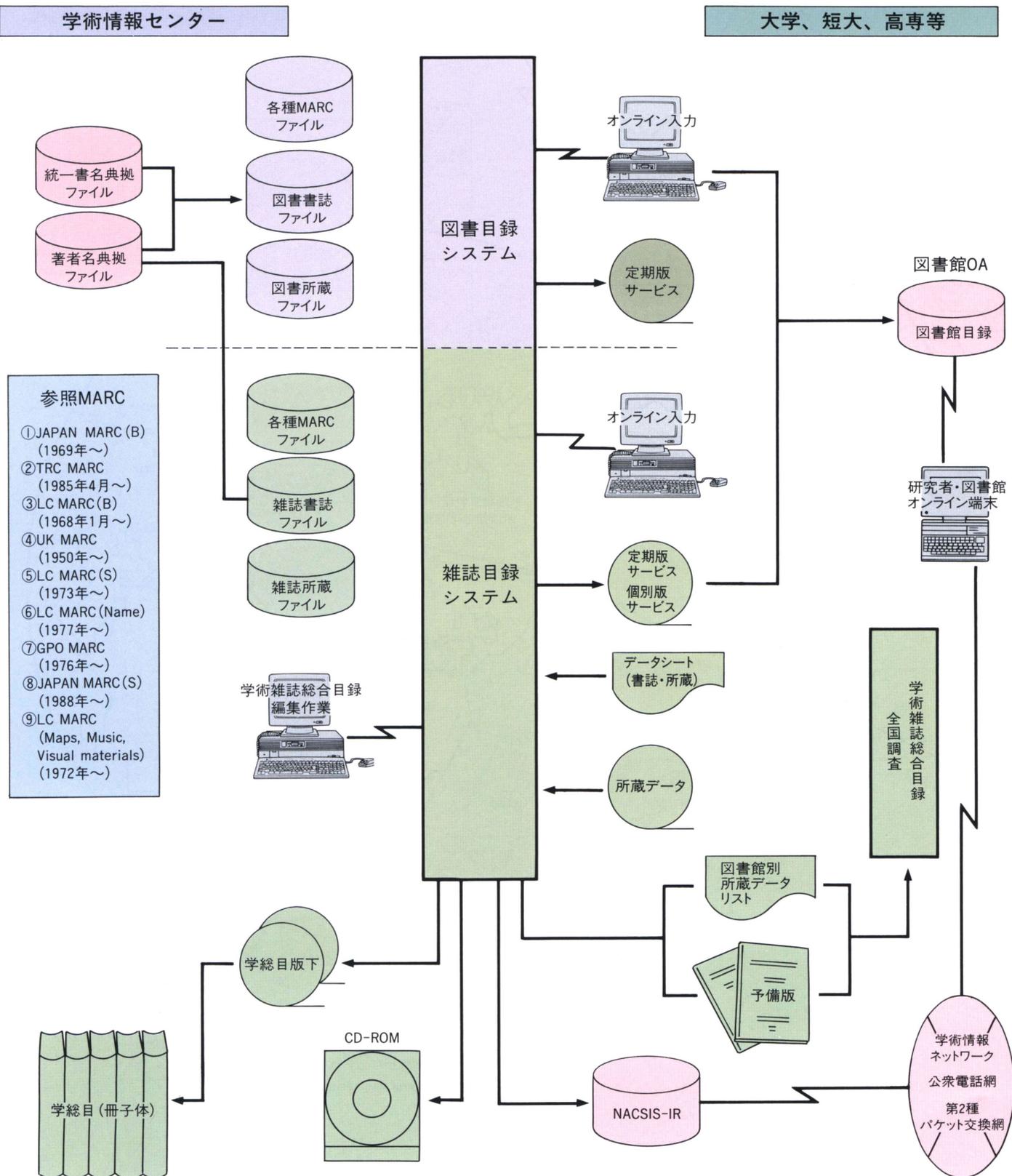
- 学術情報ネットワークの設備(パケット交換機等及びIPルータ)
 - 学術情報ネットワークの設備(パケット交換機等)
 - 電話回線からのアクセスポイント設備
- FIX-W : Federal Interagency Exchange-West

5. 目録・所在情報サービス

目録システム(NACSIS-CAT)

NACSIS-CATは、オンライン・ネットワーク方式により全国規模の総合目録データベース(図書/学術雑誌)を形成するシステムである。入力作業を効率的に行うため、JAPAN MARCやUSMARCなどの標準的書誌データ

ベースを参照するとともに、共同分担方式により、図書館の目録作業の重複を防ぎ、省力化と処理の迅速化を図っている。

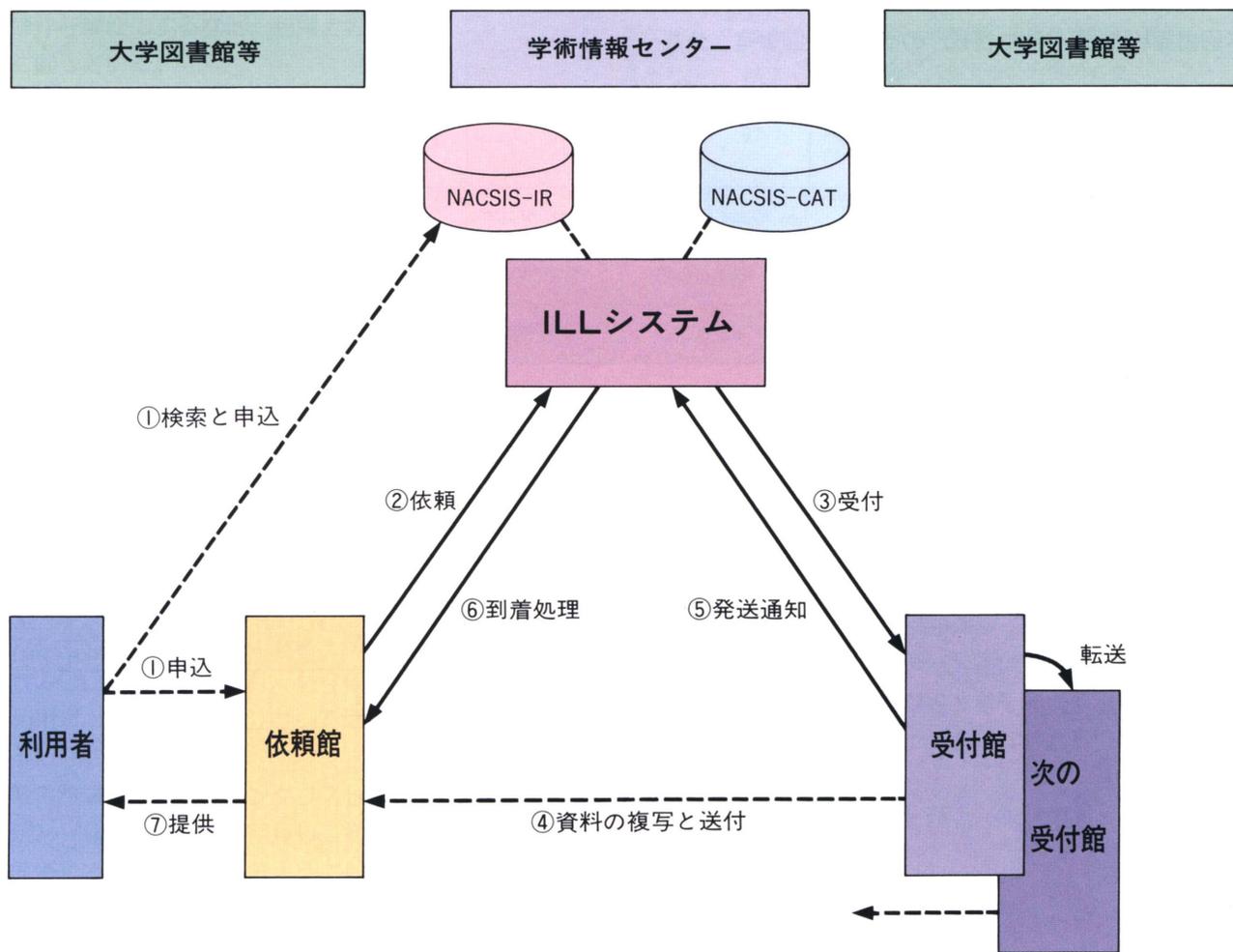


ILLシステム(NACSIS-ILL)

ILLシステムは、NACSIS-CATによって構築される総合目録データベースを活用して、図書館におけるILL(Inter-library Loan: 図書館間相互貸借)業務を支援するシステムである。ILLの業務をILLシステム中心に一元化し、総合目録データベースの最新のデータに基づいて適切な依頼先を選択するなど、業務の効率化と、利用者へ

の文献提供の迅速化を図っている。

ILLシステムの特長としては、(1)ILL業務の統合化、(2)総合目録データベースの参照、(3)謝絶時の自動転送、(4)図書館利用条件の更新と参照、(5)処理状況の確認、(6)NACSIS-IRとの連動、(7)統計情報の採取などがある。



目録所在情報サービス接続機関の設置・年度別内訳

区分	昭59	昭60	昭61	昭62	昭63	平1	平2	平3	平4	計
国立大学	3	9	13	24	21	12	11	2	1	96
公立大学	0	0	0	0	0	3	1	5	7	16
私立大学	0	0	4	8	5	19	13	29	33	111
共同利用機関等	0	0	0	0	4	1	2	3	10	20
短期大学	0	0	0	0	0	0	0	0	6	6
高等専門学校	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3
年度計	3	9	17	32	30	35	27	39	60	252

目録データベース編集

冊子体

学術雑誌総合目録

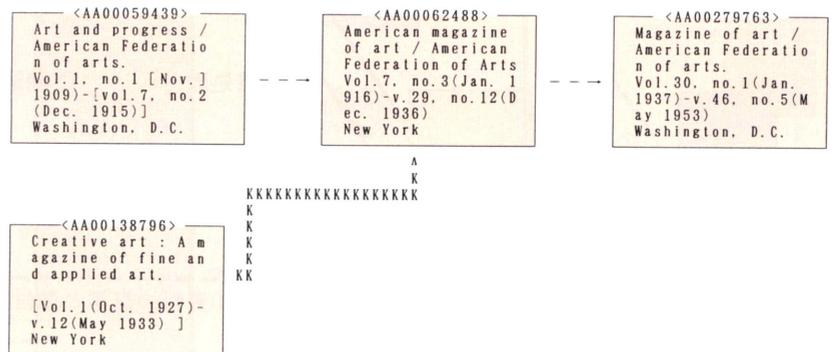
学術雑誌総合目録は全国の大学図書館などで所蔵する逐次刊行物を網羅した、図書館相互協力にとって必要不可欠な総合目録である。その編集事業は文部省に始まり、東京大学文献情報センターを経て学術情報センターに引き継がれている。規模は平成4年3月末現在で参加機関700機関(大学図書館約500館の他に各省庁の研究機関図書室、公共

図書館及び専門図書館を含む)、書誌データ18万、所蔵データ240万に達しており、これらは雑誌目録システムとしてオンラインでも提供されている。データの更新は、接続館からのオンラインによる更新とデータシートで収集した全国調査データに基づく更新とを併用している。

編別	調査時点	収録誌数	収録所蔵件数	参加機関数	備考
欧文編	昭和60年10月	96,091誌	834,603件	637機関	平成元年3月刊行、96,091誌掲載 5分冊6,500頁
和文編	平成元年11月	68,999誌	1,408,804件	702機関	平成4年3月刊行、68,999誌掲載 7分冊7,500頁

誌名変遷マップ

誌名変遷マップは雑誌の継続・吸収等の関係を図式化したもので、求める雑誌についての変遷情報を確定できる。これは目録システムのオンライン画面またはCD-ROMの画面で表示されるほか、冊子体として和文編と欧文編の2編が刊行されている。



磁気テープ

定期版

本センターでは、総合目録データベースに登録された各参加機関の図書・雑誌の書誌・所蔵情報を、週単位あるいは月単位に定期的に抽出して磁気テープで提供している。

各機関でのローカルデータベースの定期的更新作業のための一手段として活用することが可能である。

個別版

また、オンライン参加機関については自館で登録したデータ全体を、また学術雑誌総合目録参加館には雑誌のデータを、抽出して磁気テープで提供している。

各機関でローカルデータベースを一括更新する必要が生じた場合(例えば計算機のリプレース等)の基礎データとして活用することが可能である。

CD-ROM

学術雑誌総合目録CD-ROM版

平成2年3月に刊行した学術雑誌総合目録CD-ROM版は、平成元年6月時点の参加機関678機関、和洋雑誌数143,530、所蔵件数1,860,069のデータを収録している。

このCD-ROMでは和洋雑誌の同時検索や所蔵館情報の表示が可能となっているほかキー操作を簡便にするなど、利用上の便宜を十分に図っている。

右図は所蔵館情報を表示した画面であり、所蔵館の住所や電話番号などがウィンドウの中に表示されている。

現画面	書誌検索⇒簡略表示⇒ 詳細表示 ⇒変遷簡略表示⇒変遷詳細表示	全項目表示							
雑誌番号		件数 1件							
1 日本化学雑誌 / 日本化学会		<所蔵 345件>							
16 弘大 本館 69-8									
17 岩大 69,70(),									
18 東北大北 化学									
19 東北大工 化学系									
<1948-1971>									
20 東北大工 基礎系									
21 東北大全 69-9									
22 東北大遺生 69									
23 東北大選 69-9									
24 東北大非 72-9									
25 秋大 69-71, 72									
26 山形大工 69-7									
.									
.									
.									
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>.....館 室 表 示.....</p> <p>雑誌番号 { 1 } 所蔵番号 { 16 }</p> <p>略 称 { 弘大本館 } }</p> <p>〒 { 036 } }</p> <p>住 所 { 青森県弘前市文京町 1 } }</p> <p>名 称 { 弘前大学 附属図書館 } }</p> <p>T E L { 0172-36-2111 } ID { FA001346 }</p> <p>機関種別 { 1: 国立大学 } }</p> <p>サービ種別 { 1: 複写申込を受け付ける } }</p> </div>									
変遷データ〔雑誌番号: 〕 表示位置変更〔雑誌番号: 1 所蔵番号: 〕									
F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	F10
館室表示終了								メッセージ	実行

個別版CD-ROM

総合目録データベースに登録された各参加機関それぞれの図書・雑誌の書誌・所蔵情報を1枚のCD-ROMに記録し、個々の図書館での利用者用目録(OPAC)として活用できるようにしている。

検索の方法を「ブラウジングリスト一覧」「キーワード検索」の2種類用意し、初心者から熟練者まで広く対応できるようにした。

右図はタイトルによるブラウジングリストの表示画面であり、帯のカーソルが位置する部分(この場合は「コンピュータアナリシスシリーズ」)を選べば該当の書誌が詳細表示される。

現画面	メニュー⇒ タイトル順 ⇒詳細表示	001F図雑				
<p>タイトルを選択し、実行 (F10) を押してください。</p> <p>コンピュータアナリシス / 現代社</p> <p>コンピュータ音声処理 / 安居院猛, 中嶋正之著. -- 秋葉出版, 1986.</p> <p>コンピュータサイエンス 大学講座 -- 近代科学社.</p> <p>コンピュータ社会の病理 : いじめのシステム / 高橋友樹著. -- 東洋経済新報, 1986.</p> <p>コンピュータソフトウェアのことがわかる本 : OS からアプリケーション・プログラムまで 利用技術のすべて</p> <p>コンピュータとOR / 加瀬滋男, 森健一著. -- 日刊工業新聞... 1982</p> <p>コンピュータによる液体力学 / マリツカ・J・ロッチ 著 ; 高橋亮一 [ほか] 訳 ; 上, 下.</p> <p>コンピュータによる図説量子力学 / ジェームズ・プラット, ハンス・ティーターマン著 ; 平田邦男訳. --</p> <p>コンピューターの戦略意思決定利用 ; パソコンの正しい使い方 / 西順一郎編著. --</p> <p>コンピュータユース・マニュアルの書き方 / Susan J. Grimm [著] ; 松本俊次訳. -- 日刊工業</p> <p>コンピュータ・ユーティリティ : その技術と展望 / D.F. マーケル著 ; 藤井純訳. --</p> <p>コンピュータJournal ⇒ Journal of computer</p> <p>.....</p>						
タイトル (ヨミ) [███] へ						
終了	戻る	移動	前頁	次頁	ヘルプ	実行

図書館ネットワーク

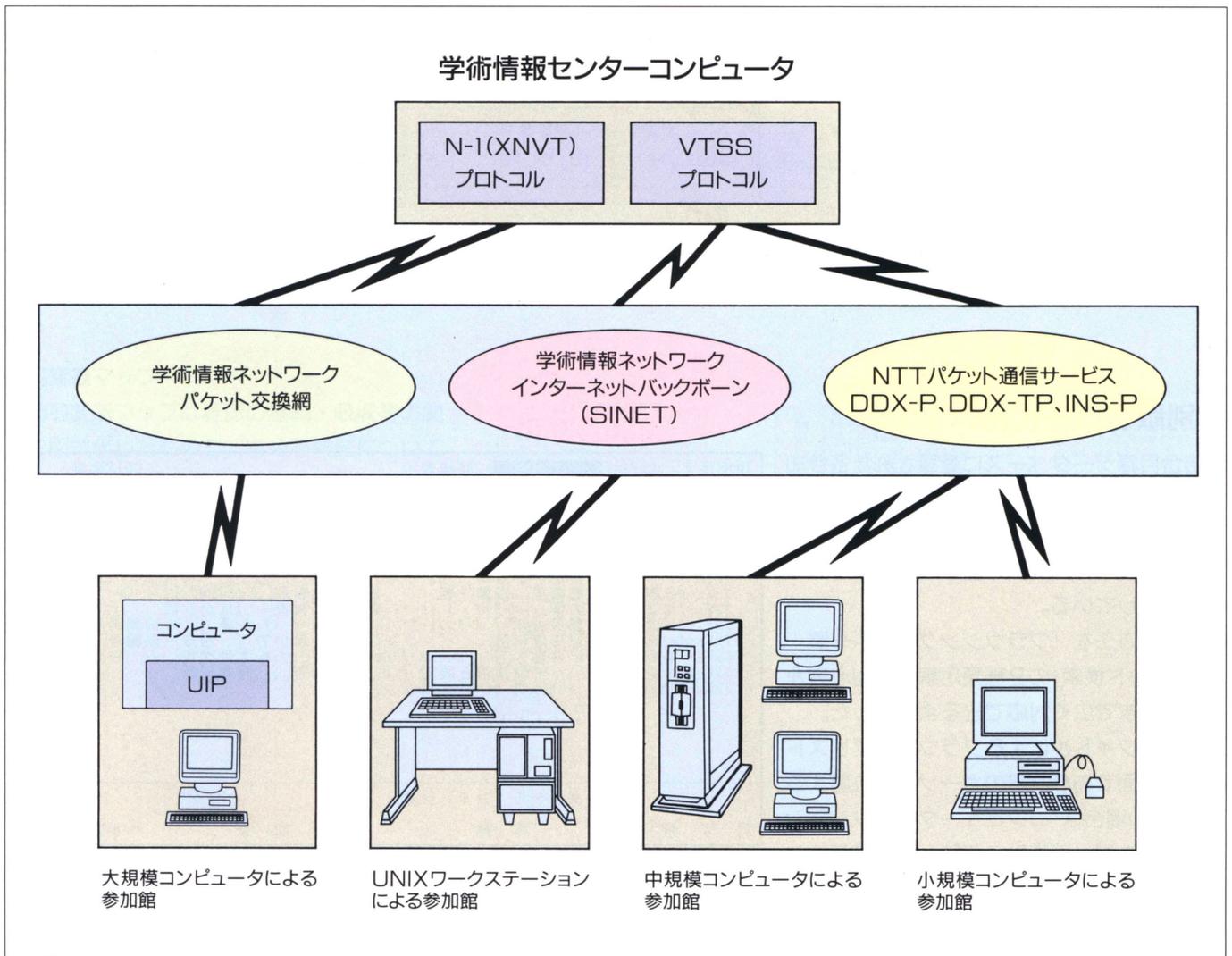
学術情報センターでは、目録システムやILLシステムを遠隔地の参加館がオンラインで使用するため、下図のような2系統のネットワーク接続手順を開発、運用している。ひとつは大学間コンピュータ・ネットワークの接続手順(N-1)であるが、漢字や拡張文字(EXC)の通信機能のために、特にXNVT*手順を開発した。もうひとつは小規模

コンピュータによる接続のためのVTSS**手順である。どちらもユーザ側にはUIP***が搭載され、高度な画面型マンマシン・インタフェースを提供している。今後は一般ユーザ向けの検索サービスにも、このような新しいマンマシン・インタフェースが活用されてゆくであろう。

* extended NVT 拡張NVTプロトコル

** Virtual screen transfer on TSS link TSS接続による仮想画面転送方式

*** User Interface Program



6. 情報検索サービス(NACISIS-IR)

NACISIS-IRでは、学術研究情報を迅速かつ確に研究者に提供することを目的として、人文・社会・自然科学の分野にわたって3,600万件以上の学術情報を蓄積し、オンラインにより提供している。

平成5年度当初のサービスデータベースは35種である

が、今後、学術研究の動向、研究者のニーズ等を見極めながら、さらに充実していく予定である。

また、情報検索に際して、ユーザの習熟の便を図るため、すべてのデータベースに対して練習データベースを用意している。

サービスデータベース一覧

(平成5年4月1日現在)

データベース名	データ件数	収録期間	対象分野	内 容【作成機関】	経費区分
科学研究費補助金研究成果概要データベース	93,000件	1985～	全分野	文部省の科学研究費により行われた研究の研究成果報告概要の情報【学術情報センター】	A
学位論文索引データベース	57,000件	1984～	全分野	我が国の大学で授与される博士学位論文の索引情報【学術情報センター】	
学会発表データベース	125,000件	1987～	全分野	各関連学会の全国大会・研究会における研究発表の概要情報【学術情報センター】	
第一系(電気・情報・制御)	電気学会、照明学会、電子情報通信学会、テレビジョン学会、情報処理学会、計測自動制御学会、システム制御情報学会、日本ソフトウェア科学会、人工知能学会、日本印刷学会、画像電子学会、トロン協会、プリント回路学会、精密工学会、日本放射線技術学会				
第二系(化学)	高分子学会、日本セラミックス協会、日本農芸化学会				
第三系(建築・土木・造園)	日本建築学会、日本造園学会、土木学会、土質工学会				
第四系(生物学・農学)	日本植物生理学会、日本昆虫学会、日本応用動物昆虫学会、日本生態学会				
第五系(理学)	日本岩石鉱物鉱床学会、日本鉱物学会、資源地質学会				
第六系(工学)	日本造船学会、関西造船協会、西部造船会				
第七系(医学)	日本歯科理工学会、日本ペインクリニック学会、大阪歯科学会、日本解剖学会				
第八系(人文・社会科学)	日本生涯教育学会、日本デザイン学会、日本家政学会、日本家庭科教育学会、日本エスペラント学会				
学術論文データベース第一系(電子)	全文 930件 抄録 2,500件	1989～	電 子	電子分野の学会論文の全文情報【学術情報センター】 電子情報通信学会のIEICE TRANSACTIONS on Fundamentals of Electronics, Communications and Computer Sciences, IEICE TRANSACTIONS on Communications, IEICE TRANSACTIONS on Electronics, IEICE TRANSACTIONS on Information and Systems	
学術論文データベース第二系(化学)	8,900件	1983～	化 学	化学分野の学会論文の全文情報【学術情報センター】 高分子学会の高分子論文集、Polymer Journal、日本農芸化学会のBioscience, Biotechnology, and Biochemistry、日本薬学会のChemical & Pharmaceutical Bulletin, Biological & Pharmaceutical Bulletin、日本化学会のBulletin of Chemical Society of Japan、日本セラミック協会の日本セラミックス協会学術論文誌	
学術論文データベース第五系*(理学)	1,500件	1992～	理 学	理学分野の学会論文の全文情報【学術情報センター】 応用物理学欧文誌刊行会のJapanese Journal of Applied Physics	
海外研究プロジェクトデータベース	81,000件	1985～	科学技術	8か国(日、米、英、仏、独、伊、加、スウェーデン)における政府等助成に基づく研究プロジェクトに関する研究概要情報【学術情報センター】 NACISIS(日)、JICST(日)、NSF(米)、SERC(英)、CNRS(仏)、DFG(独)、CNR(伊)、NRC(加)、NUTEK(スウェーデン)	

データベース名	データ件数	収録期間	対象分野	内 容【作成機関】	経費区分
民間助成研究成果概要データベース	960件	1964～	全 分 野	民間助成財団等の研究助成金により行われた研究の成果の概要情報【学術情報センター】	A
電気通信普及財団、三菱財団、東レ科学振興会、放送文化基金、総合研究開発機構、国際コミュニケーション基金、秋山記念生命科学振興財団、内藤記念科学振興財団、住友財団、トヨタ財団					
経済学文献索引データベース	91,000件	1983～	経 済 学	我が国の経済学分野の学術文献の索引情報【学術情報センター】	
(備考) 経済資料協議会が収集した、経済学分野の学術雑誌論文の書誌事項を記入したデータシートを情報源としている。					
学会予稿集電子ファイル	43,000件	1969～	全 分 野	我が国の学会の大会・研究会で刊行される予稿集記載の研究発表索引情報(本文は画像で提供)【学術情報センター】	A
日本物理学会、応用物理学会、日本医学教育学会、日本応用心理学会、日本科学教育学会、日本教育工学会、日本教育情報学会、日本特殊教育学会、日本行動計量学会、全国大学国語教育学会、日本生涯教育学会、日本心理学会、日本理科教育学会、日本経営教育学会					
臨床症例データベース*	2,000件	1988～	医 学	我が国の臨床医学分野の症例報告の全文情報【学術情報センター】	A
日本内科学会、日本胸部疾患学会、日本産婦人科学会、日本臨床血液学会、日本泌尿器科学会、日本新生児学会、日本小児外科学会、日本脳神経外科学会					
雑誌記事索引データベース	91万件	1984～	全 分 野	我が国の学術雑誌等に掲載された学術文献の索引情報【国立国会図書館】	B
現行法令データベース	3,600件	最 新 版	法 律	我が国の現行法令の全文情報【学術情報センター】	
維新史料綱要データベース	20,000件	1846～ 1871	史 学	「維新史料綱要」(全10巻)の全文情報及び「大日本維新史料」の索引情報【東京大学史料編纂所】	
木簡データベース	15,000件	—	史 学	我が国で発掘された木簡の釈文及び報告書の索引情報【奈良国立文化財研究所】	A
研究者ディレクトリ	13万件	1988年 5月現在	全 分 野	大学等の研究者の研究課題・発表論文等の情報【学術情報センター】	
データベース・ディレクトリ	1,300件	1992年 4月現在	全 分 野	大学等で作成、検索サービスされているデータベースのディレクトリ【学術情報センター】	B
家政学文献索引データベース	20,000件	1979～	家 政 学	我が国の家政学分野の学術文献の索引情報【日本家政学会】	
RAMBIOS	5,400件	1983～	生 物 学	分子生物学諸分野のレビュー文献の索引情報【RAMBIOS刊行会】	
化学センサーデータベース*	9,000件	1975～	化 学	化学センサーの作成法・特性及び文献情報【横浜国立大学化学データベース委員会】	B
電気化学データベース(仮称)*		最 新 版	物 理 化 学	電気化学反応パラメーター及び電解質溶液の物理化学パラメーターに関する数値情報及び文献情報【横浜国立大学化学データベース委員会】	

データベース名	データ件数	収録期間	対象分野	内 容【作成機関】	経費区分
Life Sciences Collection PLUS Marine Biology and BioEngineering	114万件	1982～	生命科学	生命科学分野における図書、雑誌記事、会議録等の抄録付き文献情報 【米国Cambridge Scientific Abstracts社】	A
MathSci	148万件	1940～	数理科学	Mathematical Reviews誌等7誌に対応する抄録付き文献情報 【米国数学会】	
COMPENDEX PLUS	245万件	1976～	工 学	工学分野における図書、雑誌記事、会議録等の抄録付き文献等情報 【米国Engineering Information社】	
Harvard Business Review	2,600件	1927～	経 営 学	Harvard Business Review誌の全文情報 【米国John Wiley & Sons社】	
ISTP & B	195万件	1982～	科学技術	Index to Scientific & Technical Proceedings誌、Index to Scientific Book Contents誌に対応する会議録の索引情報 【米国Institute for Scientific Information社】	
EMBASE	267万件	1984～	医学・ 薬学	Excerpta Medica誌に対応する抄録付き文献情報 【オランダElsevier Science Publishers B.V./Excerpta Medica社】 ("EMBASE" 及び "Excerpta Medica" は、Elsevier Science Publishers B.V./Excerpta Medica社の登録商標)	
SciSearch	425万件	1987～	自然科学	Science Citation Index誌に対応する抄録付き索引及び引用情報 【米国Institute for Scientific Information社】	
Social SciSearch	74万件	1987～	社会科学	Social Sciences Citation Index誌に対応する抄録付き索引及び引用情報 【米国Institute for Scientific Information社】	
A & H Search	68万件	1987～	人文科学	Arts & Humanities Citation Index誌に対応する索引及び引用情報 【米国Institute for Scientific Information社】	
目録所在情報データベース (和図書)	書誌 72万件 所蔵582万件	最新版	全分野	我が国の大学図書館等に所蔵される和図書の総合目録情報 【学術情報センター】	
目録所在情報データベース (洋図書)	書誌171万件 所蔵393万件	最新版	全分野	我が国の大学図書館等に所蔵される洋図書の総合目録情報 【学術情報センター】	
目録所在情報データベース (和雑誌)	書誌 7万件 所蔵152万件	最新版	全分野	我が国の大学図書館等に所蔵される学術和雑誌の総合目録情報 【学術情報センター】	
目録所在情報データベース (洋雑誌)	書誌 11万件 所蔵 94万件	最新版	全分野	我が国の大学図書館等に所蔵される学術洋雑誌の総合目録情報 【学術情報センター】	
国会図書館科学技術欧文会議録 データベース	33,000件	1985～	科学技術	国立国会図書館が所蔵する科学技術分野の国際会議、各種シンポジウム等の欧文会議録の書誌情報 【国立国会図書館】	
アメリカン・センター図書館総合目録 データベース	6,500件	最新版	全分野	アメリカン・センター図書館6館が所蔵する図書の書誌、所蔵の総合目録情報 【アメリカン・センター】	
JPMARC	117万件	1956～	全分野	日本国内で発行された図書の書誌情報 【国立国会図書館】	
LCMARC(Books)	339万件	1973～	全分野	主として米国で発行された図書の書誌情報 【米国議会図書館】	
LCMARC(Serials)	57万件	1973～	全分野	欧文雑誌の書誌情報 【米国議会図書館】	
学術関係会議等開催情報* (日本学術会議編)	3,500件	最新版	全分野	日本学術会議に登録している学協会が関係している国際会議等の開催予定情報 【学術情報センター】	
学協会集会スケジュール* (日本工学会編)	800件	最新版	工 学	日本工学会所属の学協会が関係している大会・研究会等のスケジュール情報 【日本工学会】	
日本独文学会文献情報 データベース(仮称)*	8,000件	1988～	人文科学	日本独文学会所蔵学術雑誌・図書の文献情報 【日本独文学会】	
スラブ地域文献情報 データベース(仮称)*	7,000件	1988～	人文社会 科 学	我が国で発表されたスラブ地域の文献情報 【スラブ学文献研究会】	

*印の付いているデータベースは、平成5年度中にサービス開始予定

NACSIS-IRの利用

利用者の範囲

本サービスは、原則として、学術研究、図書館における参考調査業務のために利用する大学、短期大学、高等専門

学校、大学共同利用機関、文部省所轄機関等の教員、研究職員、図書館職員、大学院生等を対象としている。

利用料金

経費区分	接 続 料	ヒ ッ ト 料
A	各データベースに接続している時間に対して 50円/分	検索された文献について、その書誌情報あるいは抄録等を端末に出力した件数に対して 13円/件
		ファクシミリ出力した枚数に対して 34円/枚
B	各データベースを呼び出す都度 30円/回	—

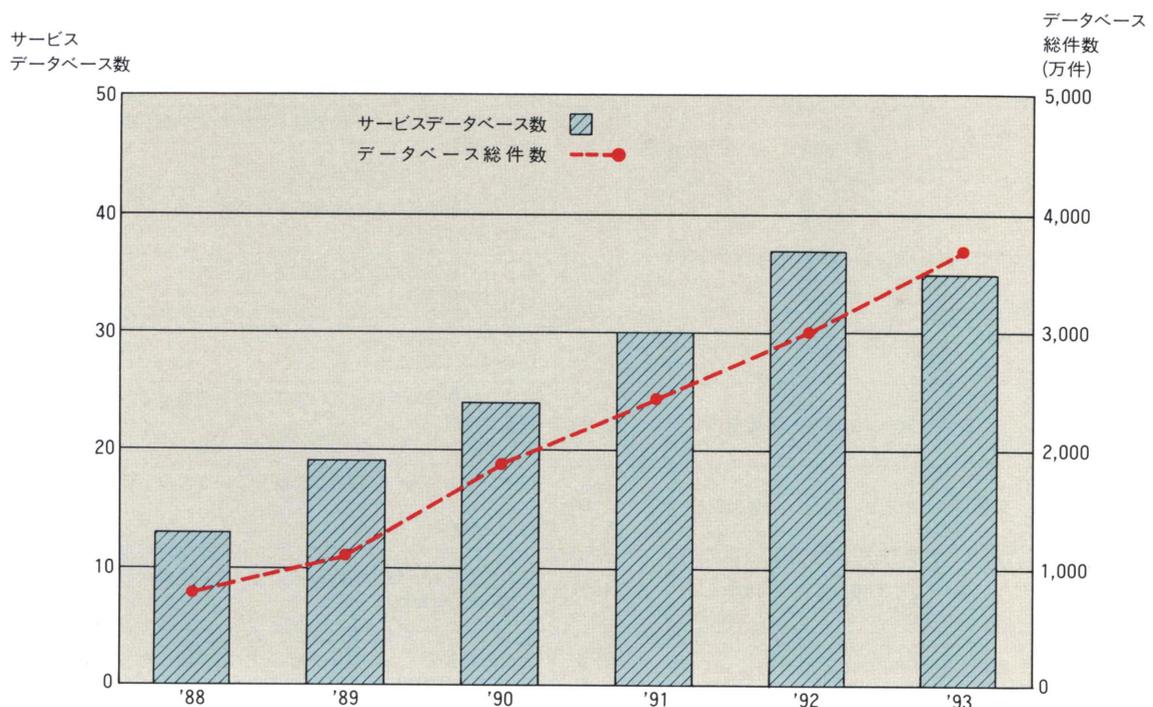
- 経費の区分は「サービスデータベース一覧」を参照
- 利用料金は合計額に百分の三を乗じて得た額を加算した額
- 利用料金支払いの費目には特に制限はなく、国立学校校費、公私立学校の経費の他、文部省科学研究費補助金、私費の中から選択

サービス時間

曜 日	月曜日～金曜日	土曜日
サービス時間	9：00～翌日2：00	9：00～14：00

- 日曜日、国民の祝日、休日、年末年始および3月31日はサービス休止

サービスデータベース数・データ総件数の推移



- 注1) 学会発表データベース第1系～第8系は、平成4年11月30日から学会発表データベースに一歩化された。
 注2) 各年度当初(4月1日現在)の件数を示す。

7. 電子メール/電子掲示板サービス

電子メール・サービス(NACISIS-MAIL)

学術情報ネットワークを基盤とするサービスのひとつとして、学術情報センターと7大学大型計算機センターが共同で運用している電子メールサービス(SIMAIL)は、全国の大学等の研究者や図書館職員等の間の容易かつ迅速な情報交換を可能としている。

NACISIS-MAILは、SIMAILの一員として国内の電子メール・サービスを提供するとともに、SIMAILの海外の窓口としての役割も担っている。

具体的には、学術情報センターが整備した米国への専用回線を利用して、米国のインターネットに接続し、また、海外のBITNETとはBITNET JPを介することにより、国際電子メール・サービスを提供している。また、SIMAILのプロトコルは国際標準のMHSであり、これと異なるプロトコルを採用しているインターネット及びBITNETとの接続のために、NACISIS-MAILシステム内にプロトコル変換機能を持っている。インターネット及びBITNETにはそれぞれ欧州や太平洋地域にも相互に接

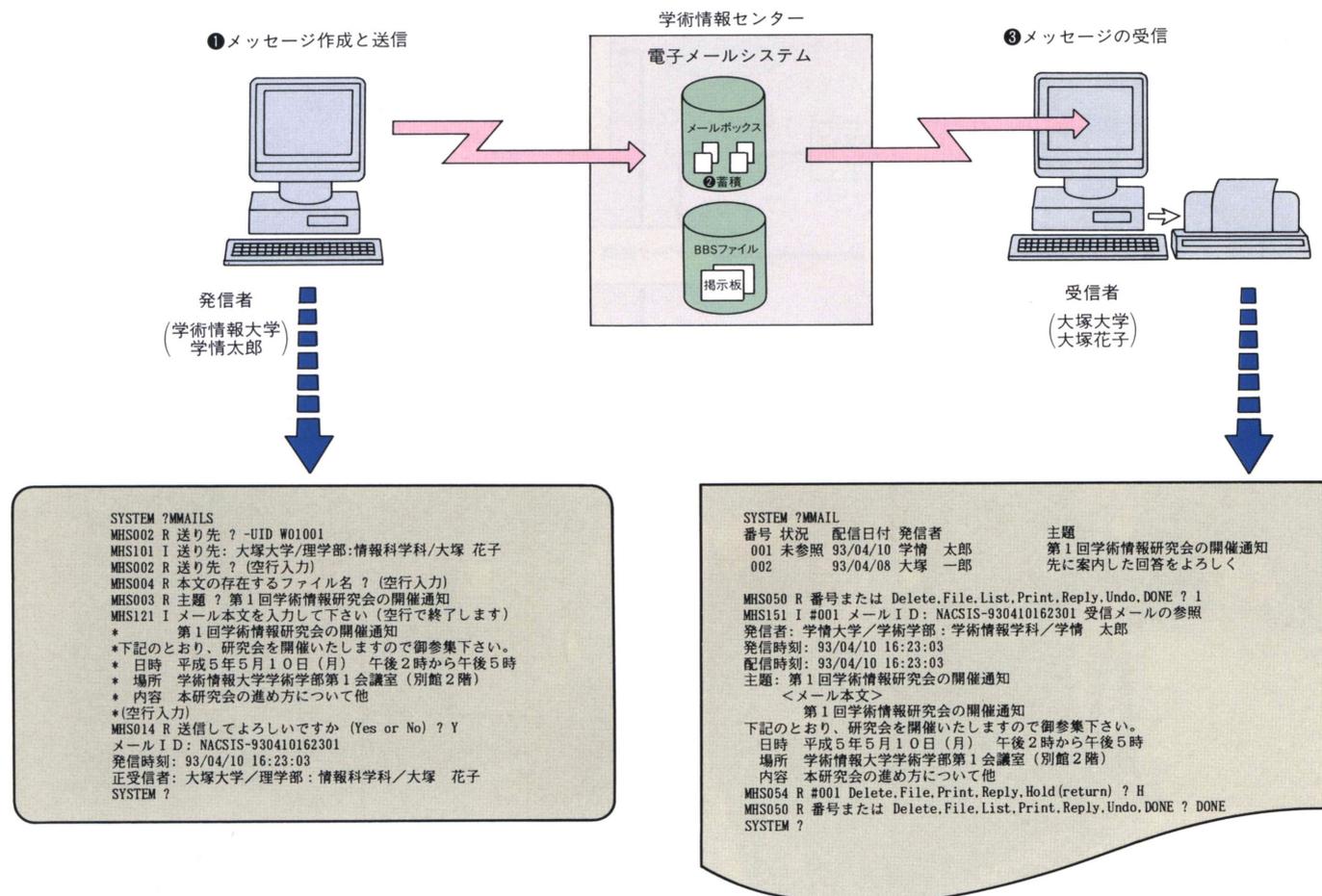
続されたネットワークがあるので、NACISIS-MAILの国際電子メール・サービスを通じて多数の国々の研究者との情報交換が可能になっている。

また、NACISIS-MAILのサービスメニューには、ディレクトリサービス(宛先案内)があり、NACISIS-MAILシステムに登録された利用者だけでなく、SIMAIL内全体のアドレス情報も提供している。

NACISIS-MAILへの登録と利用料金

電子メール・サービスを利用するには、利用者の所属と氏名等を登録して、メールボックス(郵便箱)を開設する必要がある。NACISIS-MAILの利用とSIMAIL内の他システムからの国際電子メール・サービス利用については、直接または大型計算機センターを介して学術情報センターに登録申請する必要がある。

また、国内電子メール・サービスの利用は無料であるが、国際電子メール・サービスの利用については、発信についてのみ有料(20円/1KB)である。

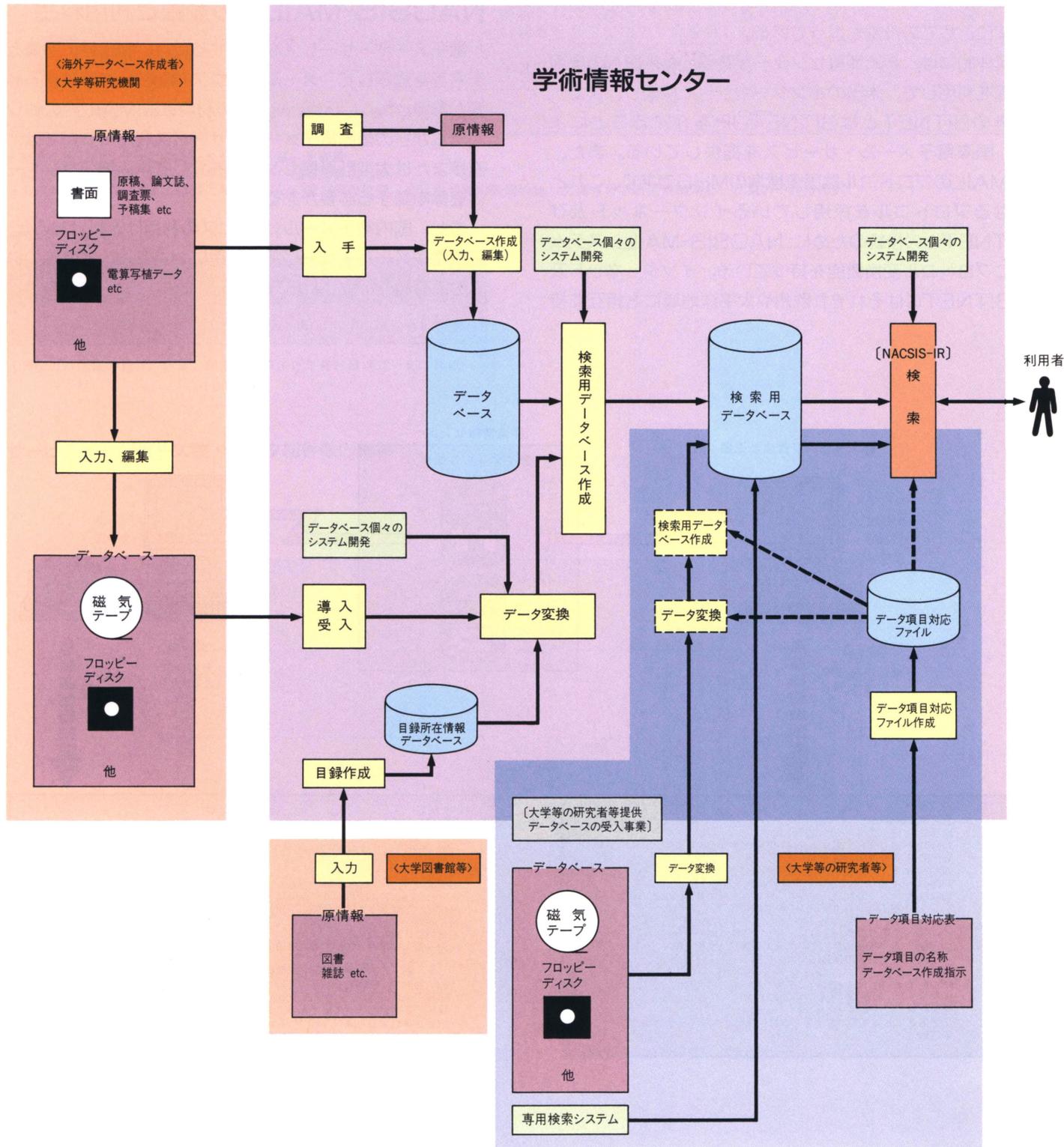


8. データベースの形成

学術情報センターにおけるデータベースは、学術情報センターが企画、作成したもの、他の機関・研究者等が作成したものを受入れたもの、海外のデータベース作成機関から導入したものの3種類に分類される。

特に、学術情報センターで作成しているデータベースは、文部省、大学、学協会、民間助成財団等の協力によりできあがっている我が国固有の学術情報データベースである。

また、「大学等の研究者等」が作成している多くの学術情報データベースを積極的に受け入れ、サービスするために、学術情報センターでは、データベースの受入要項、技術仕様を定め、研究者等から提供されたデータベースを短期間で全国に情報検索サービスするための「大学等の研究者等提供データベースの受入事業」を実施している。



9. 事業の国際展開

ネットワークの整備

学術情報センターから、国際専用回線を用いて、米国並びに英国の拠点的な機関とネットワーク接続を行っている。これらの機関は、ネットワーク制御にとって中心的な役割を果たしている機関や、学術研究のための拠点的な機関であり、それらを以下に示している。

- 1 米国航空宇宙局のAmes研究所(NASA/ARC)：国際ネットワーク接続の制御装置を配置し、これを經由してNSFNETに接続。
- 2 米国科学財団(NSF)及び米国議会図書館(LC)：NASA/ARCを經由して国際回線が接続されており、NACSIS-IRサービスがこれらの機関で利用可能。
- 3 英国図書館(BL)：NASA/ARCから同様に国際回線が延長されており、またBLの協力で4ヶ所の大学図書館とJANETを介して接続。

英国研究図書館におけるNACSIS-CATの試用

平成3年3月から英国の日本語資料を取扱う主要な研究図書館とNACSIS-CATの試用プロジェクトを発足させている。このプロジェクトは、NACSIS-CATの海外での利用可能性を評価することを目的としており、あわせて、英国における日本語資料の総合目録作成の試行となるものである。

プロジェクトへの参加は次の6機関である。

- ・英国図書館オリエンタル・コレクション部
- ・ケンブリッジ大学図書館
- ・オックスフォード大学ボドリアン図書館
- ・シェフィールド大学東アジア研究部図書館
- ・スターリング大学日本研究センター図書館
- ・ロンドン大学東洋学部図書館



NACSIS-IR

NSF、LC、BL及び上記プロジェクト参加機関にオンライン提供しているデータベース情報検索サービスは、本センターの作成もしくは他機関との共同製作または他機関から導入したもののうち、次の15種類である。

データベース名称	使用言語
科学研究費補助金研究成果概要データベース	日本語、英語
学位論文索引データベース	日本語
学会発表データベース第一系～第八系	日本語、英語
民間助成研究成果概要データベース	日本語、英語
経済学文献索引データベース	日本語、その他
維新史料綱要データベース	日本語
木簡データベース	日本語
研究者ディレクトリ	日本語、英語
データベース・ディレクトリ	日本語
家政学文献索引データベース	日本語
RAMBIOS	英語
目録所在情報データベース(和図書)	日本語
目録所在情報データベース(洋図書)	英語、その他
目録所在情報データベース(和雑誌)	日本語
目録所在情報データベース(洋雑誌)	英語、その他

電子メール・サービス

研究者間の国際的な情報交換を推進するため、東京理科大学、米国NASA/ARCを介して、学術情報センター等が国内で運用しているSIMAILと国際的な電子メール網であるBITNET及びインターネットとの間で電子メールの交換サービスを行っている。



10. ホスト計算機システム

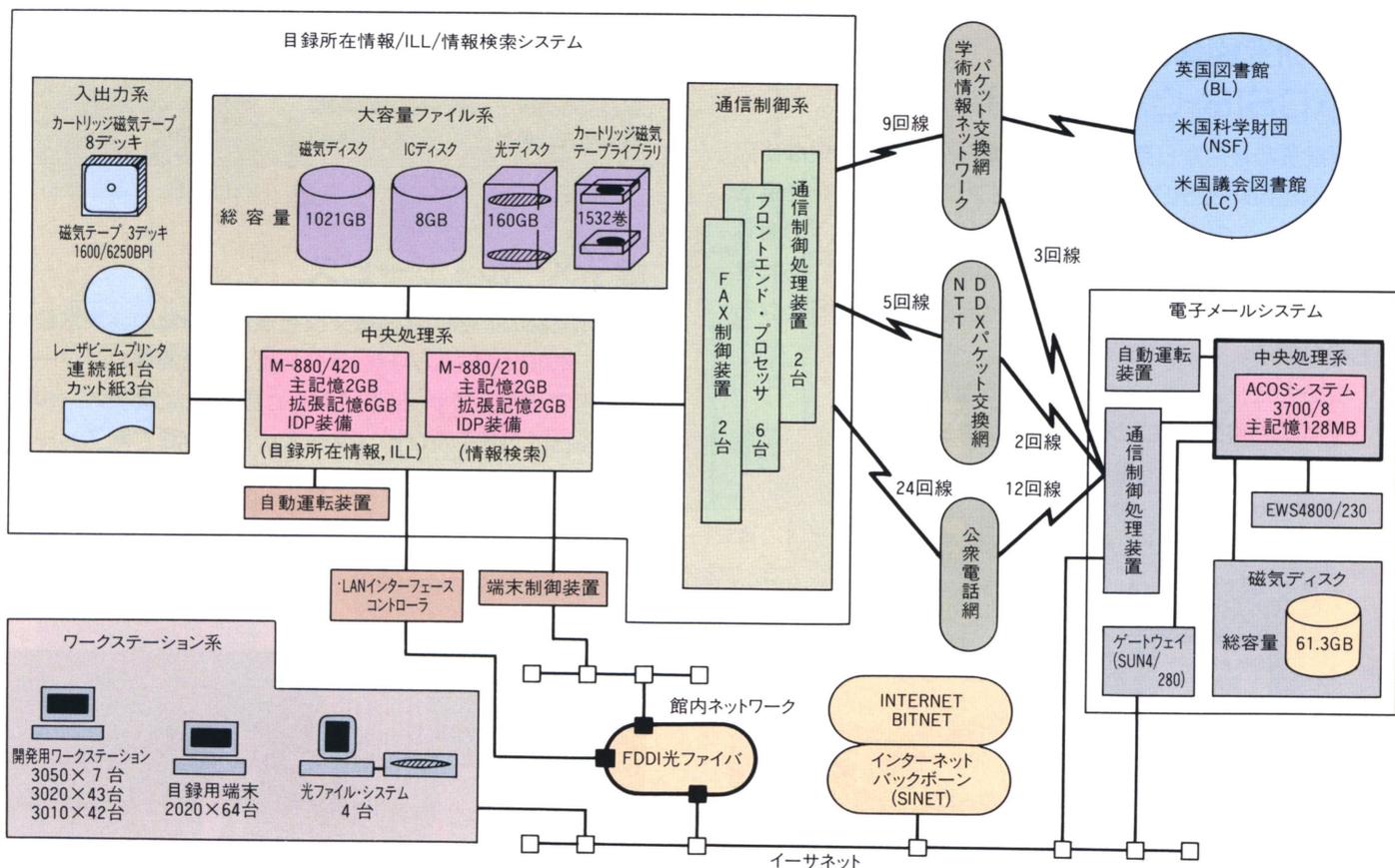
目録所在情報/情報検索/データベース形成用システム

NACSIS-CAT/IRやデータベース形成には、汎用超大型計算機システムHITAC M-880/420及びM-880/210が設置されている。全体の構成は、中央処理装置4台内蔵のM-880/420と2台内蔵のM-880/210により周辺装置系を共有する疎結合システムである。内蔵型データベースプロセッサ(IDP)による高速のデータベース処理のほか、総容量1,000GBの磁気ディスク装置、半導体補助記憶装置(ICディスク)や光ディスク等により大規模かつ多種類のデータベースの蓄積が可能である。通信制御系には、各種の通信メディアとプロトコルへ対応する機能が用意されている。

電子メール/電子掲示板システム

NACSIS-MAILと掲示板サービスには、汎用大型計算機システムACOS3700/8が設置されている。

電子メールと電子掲示板のメッセージや電子メールのディレクトリ等多量のデータの蓄積のために、総容量61.3GBの磁気ディスク装置が設置されている。また、通信制御系では、各種の通信メディア及びプロトコルへの対応が可能となっている。さらに、国際電子メールに接続するためのゲートウェイも用意されている。



11. 研究活動

研究開発の特徴

学術情報システムは、全国の大学等の情報処理関係施設・図書館等をつないで、その所蔵する情報資源を共同利用する一方、これら機関の研究者間の研究コミュニケーションを促進するためのネットワーク・サービスの提供を行うことを目的としている。したがって、学術情報データベースはもちろん、その処理と伝達のためのハードウェア及びソフトウェアが整備されて初めて十分な機能を発揮するものであり、そのための研究開発も、必然的に総合的な活動を指向するものである。

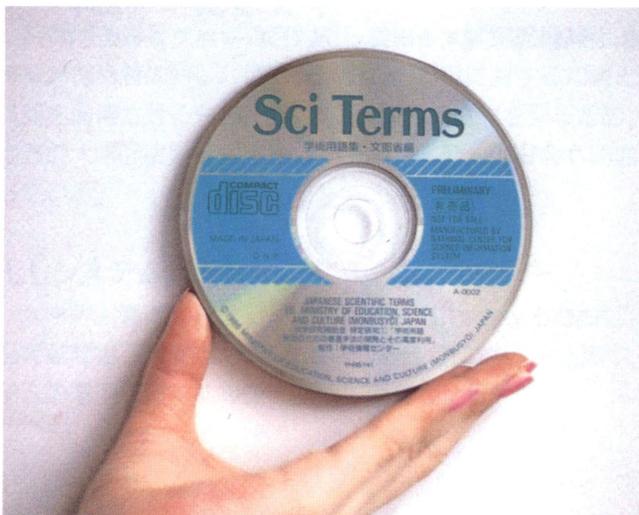
学術情報センターにおける研究開発は、この事を反映して5つの特徴を備えている。第1に、学術情報システムは主題を問わず我が国の大学を中心とする研究者全体をサービス対象とした、多様な構成要素から成る極めて大規模なシステムである。第2に、学術情報システムの構築が、我

専門分野ごとの研究活動

研究開発部の活動は、専門分野の知見を活かした縦構造の研究体制と、ミッションに従った異なる専門分野の協力

学術情報研究系

広く学術情報システムの構築・形成の在り方から始まって、目録所在情報の標準化、大学図書館のハウスキーピングの機械化、電子図書館、電子出版などの研究開発、数値・画像等のファクト情報、抄録・索引等の二次情報など各種学術情報データベースの構築・管理手法の研究開発、キーワードの自動抽出法等情報検索の自動化技術、引用分析等を含むデータベースの計量書誌学的研究と研究手法の開発、データベース形成の効率化、評価、品質管理等の研究開発、学術情報システムの最適利用に関する研究開発、更に、国際サービス、特に東アジア地域におけるサービスに必須な、多文字種表記に対応するシステムの研究開発等を行っている。



国において初めての試みであるのはもちろん、世界においても類例をみないものであるため、先端的な研究開発が求められている。第3に、純粋な研究開発でなく、実用に耐えるシステムの構築・運用という具体的な目標を実現させる実用性である。第4には、このシステムが人間・機械系を含む社会システムであることから、理工学的及び社会科学的方法を統合する学際的な研究開発である。そして第5には、海外各国との学術情報の流通に貢献するための国際性である。これらの特性を踏まえた研究開発は、それにふさわしい規模と、他の研究機関との共同研究等の運用における柔軟性が必要とされている。

このような研究開発活動は、学際理学・工学の大講座を通じて、東京大学を始めとする、大学院教育や各種のプログラムへの参加を必然的に伴っている。

による横構造のプロジェクト体制との二つの型に大別できる。専門分野に基づく研究活動は次のようである。

システム研究系

学術情報システムを実現するための大規模データベース・システムの設計と開発、ハードウェア・システムに関する研究開発から始まって、学術情報端末、目録端末の研究開発、システムの効率的運用のための技法の開発、学術情報システムの構築に必要な各種ソフトウェア(情報検索、端末、一次・二次情報データベースの利用手法等)に関する研究開発、学術情報システム形成のネットワーク技術の研究開発、ネットワーク接続方式の開発、学術情報VANとファクシミリ通信等に関する研究開発、CD-ROMによる出版の評価、使い勝手のよいヒューマン・インタフェースの在り方の研究等を行っている。

さらに、学術研究に必要な情報を国際的視野に立って流通させるためのシステムの最適構成法などを研究している。通信技術の急激な発展に伴ない、通信による学術情報サービスが国際的に急速な普及をみている。当センターにおいても、そうした通信関連の基盤的技術を効果的にサービスに反映させる体制作りの一環として、センターとして初めて超高速通信方式研究部門、および超高速画像情報処理研究部門の二つの客員研究部門を設け、広く人材を招請し、研究に当たる努力をしている。

研究動向調査研究部門

我が国の学術研究の動向と国際場裏における貢献のあり方等を研究している。これまでに計量書誌学的手法により、我が国の研究論文発表数やその引用度数について国際的な比較調査を行っており今後も発展させる。

プロジェクト型の研究活動

研究開発部における研究活動の第2の型は、学術情報研究系、システム研究系の別、あるいは各研究部門の別を越えて、特定のテーマに応じてそれぞれプロジェクト・チームを編成して研究開発に当たる、横構造のものである。

たとえば科学研究費補助金による研究プロジェクトはその典型である。発足後5年を経過し、その研究成果も次々とまとまりつつある。

科学研究費

重点領域研究	データベースからの構造的知識の抽出	高須 淳 宏	平成5年
総合研究(A)	学術用語制定の効率化に関する研究	井上 如	平成4～5年
一般研究(B)	電子図書館における原文書デリバリーシステムの開発	安達 淳	平成3～5年
奨励研究(A)	シベリアの諸言語における「膠着性」	藤代 節	平成5年
奨励研究(A)	遺伝的アルゴリズムの最適化問題への適用に関する基礎研究	相澤 彰 子	平成5年
試験研究(B)	異種分散型データベース用アクセスプロトコルの開発と実装	安達 淳	平成4～6年
国際学術研究			
(学術調査)	学術情報データベースの国際的流通のシステム化に関する調査研究	山田 尚 勇	平成4～5年
(学術調査)	国際学術ネットワークの実現を目的とする学術調査	猪瀬 博	平成4～6年
(共同研究)	日本情報および東アジア文字による学術データベースの国際交換に関する研究	井上 如	平成4～5年

研究成果公開促進費(データベース)

	経済学文献データベース	根岸 正 光	平成元年～
	研究者ディレクトリ	根岸 正 光	平成4年～
	学術論文データベース	安達 淳	平成4年～
	症例報告データベース	小山 照 夫	平成2年～
	学会発表プレプリント電子ファイル	猪瀬 博	平成元年～
	学術用語データベース	井上 如	平成4年～
	デジタル音楽アーカイブ	宮澤 彰 彰	平成5年～
創成的基礎研究費	学術支援のための超高速情報通信網の研究開発	浅野 正 一 郎	平成5～9年
特別研究員奨励費	日本の情報構造と政策当局のそれへの関わり	根岸 正 光	平成5年

学術情報センター共同研究員

	電気化学データベースの編成と公開方式の研究	根岸 正 光	昭63年～
	SGMLによる学術論文の電子原稿の作成とその全文データベース化の研究	根岸 正 光	平成2年～
	日本における国際書誌調整の研究	内藤 衛 亮	平成4年～
	音楽のデジタル保存に関する研究	宮澤 彰 彰	平成4年～
	和漢医籍国際総合目録の実行可能性調査	井上 如	平成4年～
	内科学共通知識ベースの開発	小山 照 夫	平成4年～
受託研究	可塑的ネットワーク形成のため高速パケット通信網の機能配置に関する研究	浅野 正 一 郎	平成元年～

12. 教育・広報活動

教育・広報プログラム

NACSISシンポジウム

学術情報センターの研究活動や事業活動について、発表と討論を行うもので、例年東京と関西地区で開催している。



総合目録データベース実務研修会

目録所在情報サービスを利用している大学等図書館における総合目録データベースの構築を推進するため目録担当者の指導を行い、また目録システム講習会開催時には講師を担当する等、各館の中核となる高度な知識と技術を有する指導者を養成するもの。



目録システム講習会

目録所在情報サービスを利用している大学等図書館の目録業務担当者に対し、目録システムの運用に関する知識と技術を修得させるもの。また、受講機会の拡大を図るため、地方の大学図書館を会場とした目録システム講習会も開催している。

ILLシステム講習会

大学等図書館における、ILL (Inter-library Loan : 図書館間相互貸借) システムの業務担当者に対し、ILLシステムの運用に関する知識と技術を習得させるもの。

NACSIS-IR講習会

大学等図書館において、NACSIS-IRの代行検索を行う担当者に対し、情報検索の方法等に関する知識と技術を習得させるもの。

また、受講機会の拡大を図るため、地方の大学図書館等を会場としたNACSIS-IR講習会も開催している。

電子メールシステム講習会

NACSIS-MAILの利用者に対し、電子メールシステムに関する基本的な知識と技術を習得させるもの。

情報ネットワーク担当職員研修

大学等におけるネットワーク管理運用に携わる技術担当職員に対し、情報ネットワークに関する高度な知識と技術を習得させるもので、文部省と共催で実施している。

刊行物

NACSIS利用の手引き〈情報検索・電子メール〉
—概要/申請手続き編— 第2版(1992.4)

NACSIS-IRデータベースシート

電子メールシステム利用者マニュアル 第3版(1992.6)

目録所在情報サービス利用の手引 第3版(1993.4)

目録システム利用マニュアル

データベース編—改訂版—(1991.12)

検索編—第3版—(1992.3)

登録編—第3版—(1993.3)

学術情報センターILLシステム操作マニュアル(1993.3)

学術雑誌総合目録和文編(1991年版)

学術雑誌総合目録和文編誌名変遷マップ(1987年版)

学術雑誌総合目録欧文編(1988年版)

学術雑誌総合目録欧文編誌名変遷マップ(1990年版)

学術雑誌総合目録CD-ROM(1989年版)

学術情報センター論文集—和文編(1989)

逐次刊行物

学術情報センターニュース

NACSIS Newsletter

オンライン・システムニュースレター

学術情報センター年報

学術情報センター紀要

学術情報センター要覧

ビデオテープ

NACSIS-IR 情報検索入門

学術情報のトータルネットワークを目指して(1989.3)

13. 参与・評議員・運営協議員・職員

■参与

広く学術情報システムに関する諸問題について所長の諮問に応じる。

秋山	龍	日本空港ビルデング株式会社相談役
天城	勲	前文部省顧問
井内	慶次郎	財団法人放送大学教育振興会会長
植之原	道行	日本電気株式会社特別顧問
岡本	道雄	財団法人国際高等研究所所長
小口	文一	株式会社富士通研究所相談役
加藤木	理勝	国立国会図書館長
越田	保	三井物産株式会社顧問
津田	良成	愛知淑徳大学文学部教授
中村	守孝	日本科学技術情報センター理事長
野村	忠夫	財団法人放送文化基金前顧問
福村	晃夫	中京大学情報科学部長
松永	英	国立遺伝学研究所名誉教授
渡邊	龍雄	財団法人データベース振興センター専務理事
渡辺	宏	日立マクセル株式会社代表取締役社長

(五十音順)

■運営協議員

共同研究計画に関する事項その他のセンターの運営に関する重要事項で所長が必要とみとめるものについて所長の諮問に応じる。

安達	勤	筑波大学構造工学系教授
市川	惇信	国立環境研究所長
岡田	茂弘	国立歴史民俗博物館考古研究部長
開原	成允	東京大学医学部教授
黒田	晴雄	東京理科大学教授
後藤	英一	神奈川大学理学部教授
佐々木	高明	国立民族学博物館長
鹽野	宏	成蹊大学法学部教授
清水	龍瑩	慶應義塾大学商学部教授
手塚	晃	金沢工業大学客員教授
宮川	公男	一橋大学附属図書館長
山本	毅雄	図書館情報大学教授 (五十音順)
西田	龍雄	学術情報センター副所長
山田	尚勇	学術情報センター研究開発部長
井上	如	学術情報センター研究主幹
濱田	喬	学術情報センター研究主幹
内藤	衛亮	学術情報センター教授
根岸	正光	学術情報センター教授
浅野	正一郎	学術情報センター教授
小野	欽司	学術情報センター教授
宮澤	彰	学術情報センター教授

■評議員

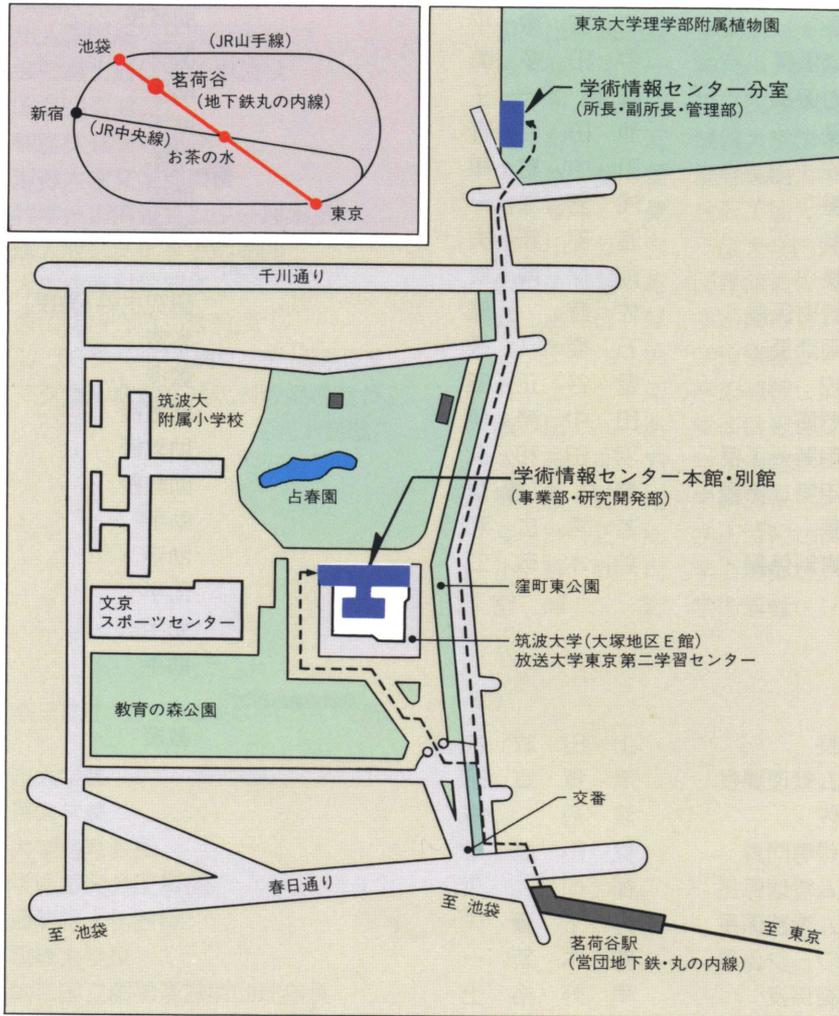
センターの事業計画その他の管理運営に関する重要事項について所長に助言する。

阿南	功一	前筑波大学長
有馬	朗人	前東京大学長
稲田	獻一	大阪大学名誉教授
大崎	仁	日本学術振興会理事長
大野	公男	北海道情報大学教授
岡村	總吾	東京電機大学長
木田	宏	(財)第二国立劇場運営財団理事長
小山	宙丸	早稲田大学総長
小山	弘志	前国文学研究資料館長
佐野	博敏	前東京都立大学総長
清水	司	東京家政大学長
末松	安晴	東京工業大学長
長倉	三郎	総合研究大学院大学長
西島	安則	京都大学名誉教授
野坂	邦史	国際電信電話株式会社副社長
藤澤	益夫	慶應義塾大学常任理事
松田	達郎	国立極地研究所名誉教授
松山	公一	九州東海大学長
宮津	純一郎	日本電信電話株式会社常務取締役副社長
森	巨	科学技術会議議員(五十音順)

■センタースタッフ

管 理 部	所長	猪 瀬 博	研究開発部	研究開発部長(教授)	山 田 尚 勇
	副所長	西 田 龍 雄	<small>【学術情報研究系】</small>		
	管理部長	三 浦 良 雄		研究主幹(教授)	井 上 如 亮
	総務課長	西 山 義 昭		教授	内 藤 衛 光
	課長補佐	久 保 田 忠		教授	根 岸 正 光
	庶務係長	伊 藤 嘉 朗		助教授	大 山 敬 三
	人事係長	二 宮 徹 平		助教授	小 山 照 夫
	国際交流係長	中 田 多 美		助手	桂 英 史
	研究協力係長	高 見 澤 光 子		助手	岸 田 節 媛
	会計課長	池 田 義 春		助手	金 容 媛
	課長補佐	田 中 恵 庫		助手	伊 藤 春 雄
	総務係長	浅 沼 洋 一		助手	影 浦 峡 媛
	経理係長	渡 部 邦 夫		助手	孫
	用度係長	阿 保 博 康	<small>【システム研究系】</small>		
	施設・管財係長	佐 藤 雅	研究主幹(教授)	濱 田 喬	
	共同利用課長	石 橋 栄	教授	浅 野 正 一 郎	
	課長補佐	菅 谷 正 昭	教授	小 野 欽 司	
	研修専門員	田 中 榮 博	助教授	小 安 達 淳	
	共同利用第一係長	羽 田 和 久	助教授	橋 爪 宏 達	
	共同利用第二係長	櫻 井 美 智 雄	助教授	飯 田 記 子	
研修係長	若 宮 広 和	助手	高 須 淳 宏		
情報・資料係長	鈴 木 敬 二	助手	趙 偉 平		
		助手	佐 藤 真 一		
		助手	相 澤 彰 子		
		助手	計 宇 生		
			<small>(研究動向調査研究部門)</small>		
			教授	宮 澤 彰	
事 業 部	事業部長	上 田 敏 次			
	システム管理課長	濟 賀 宣 昭			
	課長補佐	渡 辺 博			
	国際情報専門員	貝 田 辰 雄			
	システム管理係長	郡 司 久			
	システム業務係長	丹 下 藤 夫			
	ネットワーク係長	鈴 木 新 一			
	国際事業係長	早 野 裕 士			
	データベース課長	藤 川 俊 三			
	課長補佐	大 野 透			
	データベース管理係長	志 津 田 嘉 康			
	文献データベース係長	米 澤 誠			
	全文データベース係長	木 村 優			
	数値・画像データベース係長	船 渡 川 清			
	調査係長				
	目録情報課長	坂 上 光 明			
	課長補佐	星 野 雅 英			
	図書目録情報係長	酒 井 清 彦			
	雑誌目録情報係長	渡 邊 俊 彦			
	専門・電子情報係長	甲 斐 重 武			

案内図



学術情報センター

National Center for Science Information Systems
〒112 東京都文京区大塚3-29-1

TEL 03-3942-2351 (代表)

FAX 03-3942-6900 (管理部総務課)

FAX 03-3814-4931 (管理部会計課)

FAX 03-3942-6797 (管理部共同利用課)

FAX 03-3942-9398 (事業部システム管理課、データベース課)

FAX 03-3944-7131 (事業部目録情報課)

FAX 03-5395-7064 (研究開発部)